

膵臓癌の腹腔鏡手術 ~重要な血管を傷つけないために~

膵臓はお腹の奥の方の背中側にある重要な臓器の一つです。膵臓の真ん中に行ける癌を膵体部癌と呼んでいますが、この癌は、重要な血管のお腹側に覆いかぶさるよう大きくなるがよくあります。

消化器外科医が手術を行う際には、お腹を切る開腹手術・お腹を膨らませてカメラと道具を入れる腹腔鏡手術共に、お腹側から見て手術をすることが常識となっています。

このため進行した膵体部癌では、重要な血管が癌の裏に隠れてよく見えないという現象がしばしば発生します。

どんなに優れた外科医でもよく見えない部分は安全に手術ができないため、進行した膵体部癌は切除不可能と判断されることもあります。

そこで、お腹側から手術を行うのではなく、膵臓の背中側に作ったスペースを膨らませて、カメラや道具を入れることで、背中側から手術を行う方法(Retlap)を新たに考案しました。

背中側から手術を行うと、癌よりも手前に重要な血管が見えるようになるという目論見です。

三国志とか戦国時代で例えると、正面突破が難しい難攻不落の城(しかも重要な血管を人質に取られている状態)を、守りの手薄な裏口(背中側)からこっそり侵入して攻める事で、あっさり敵の武将(癌)を討ち取って人質(重要な血管)も救出する事が出来たという感じです。

私が以前に在籍していた大学病院で、腫瘍が腹腔動脈を巻き込んでしまい、BR(切除できるかどうか微妙な腫瘍)とUR(切除できないと考えられる腫瘍)と呼ばれる状態の膵体部癌に対して、Retlap による切除を 10 例行いました。

従来のやり方では切除できないと他の経験豊富な外科医が全員一致で判断した症例も 3 例ありましたが、全ての症例で安全に手術を行うことができました。

術後の合併症も少なく治療後の生存率も良好であり、論文として報告しました。(Gozo Kiguchi et al: Surgical Oncology 45 (2022) 101857)

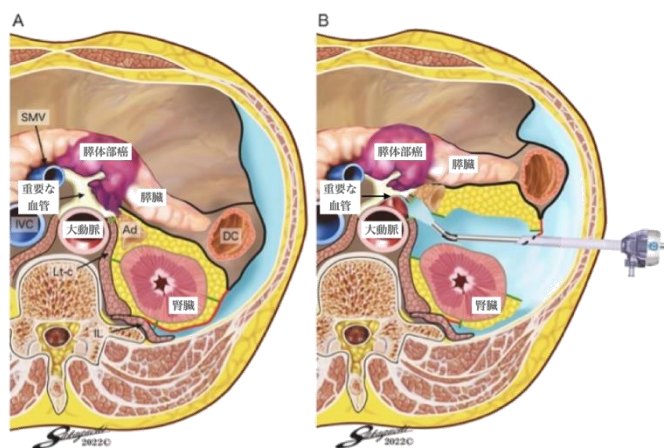
先日イタリアで開かれた膵癌治療のエキスパートの外科医が集まる「進行膵癌に対するコンセンサスミーティング」に招待され、この新しい方法に関して発表し、手術の Quality も術後成績も素晴らしいとして大変注目を集めました。

「手術はお腹側から行う」という従来の消化器外科医の常識を一旦捨てて、腹腔鏡を用いることで「背中側からでも手術が可能」という発想の転換を行うことで、新しい手術の方法を思いつくことができました。



外科 | 木口 剛造

背中側から手術を行う新しい方法：Retlap



Gozo Kiguchi et al: Surgical Oncology 45 (2022) 101857

令和5年度 第1回がんサロン開催

6月30日に「がんサロン」を開催しました。「がんサロン」は、がん患者さんやそのご家族さん同士が語り合える場所です。サロンでは、現在までの経過や抗がん剤治療による副作用の体験談や副作用症状に対して日常生活で工夫されていることなどをお話されていました。今回、サロン終了時に七夕の短冊を参加者の皆さんにお配りしました。

当院では、様々な専門職が一丸となり、がん患者さんのサポートをおこないます。

今年度第2回の「がんサロン」は12月開催予定です。お気軽にご参加ください。

がん薬物療法看護認定看護師 多賀 亜子



【対象】当院のがん患者さんとそのご家族（*おひとり、ご家族のみの参加は自由です）

【予約】代表 072-858-8233 担当 多賀

ささみの味噌スティック

材料

- ささみ 4本
- 塩胡椒 少々
- 酒 大さじ1
- 片栗粉 大さじ1/2
- 油 大さじ2
- ★味噌 小さじ1と1/2
- ★砂糖・みりん・酒 各小さじ1
- ★醤油 小さじ1/2
- 白ごま・ネギ お好みで



たんぱく質をもう少し、お弁当にあと1品！そんな時に簡単ひと品。味噌の甘辛い味でごはんもすすみます。

管理栄養士 植園明子

作り方

- ① ささみは筋を取り、食べやすい大きさにそぎ切りにし、ビニール袋に入れて塩胡椒と酒をもみ込む。
- ② ①に片栗粉をまぶす。フライパンに油を熱し、片栗粉をまぶした①を弱火で両面焼く。
- ③ 焼き色がついたら、合わせておいた★を入れ中火で絡める。
- ④ お好みで白ごまやネギをかけてできあがり。

枚方公済病院

理念 医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。